

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	RY	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	4	派遣国	フランス
派遣大学	リヨン第三大学		
期 間	2024 年 08 月 19 日～ 2025 年 06 月 12 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房		冷蔵庫	○
滞在費	約 (37,950) 円 (230 ユーロ) *1 ヶ月あたりの寮費や家賃 ※CAF による住宅補助なし					
移動	(徒歩) で、約 (15) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費 ※1 ユーロ = 165 円で計算

項 目	金 額	内 訳
食費	40,000 円	自炊用の食材
学用品購入費	2000-5000 円	本(私用)
交通費	4125 円	25 ユーロのメトロ・バス・トラム乗り放題のカード
交際費	10,000~40,000 円	外食、外出に際する費用
その他	30,000-50,000 円	旅行費(交通費、宿泊費、現地での食費等)

合計 100,000-150,000 円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

夏(6~9月)であれば、日の入りが20~21時となるためその間は安全でした。仮に夜0時~1時を過ぎていても街灯はついており、特に金・土・日には人もいたため、学校付近の治安が特別悪いという印象は受けませんでした。しかし、携帯を盗まれたという人が身近にいる人だけでも2人聞いたことがあったので、ポケットに入れる・カバンを開けたままにすることは避けた方が良いでしょう。

危険地域：Bellecour, Vieux-Lyon, Part-Dieuなどの繁華街, Guillotièreという地域は、人はいても0時以降に1人で出るのは危険だと思います。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(11) ヶ月間	保険料	(114,380) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	() ヶ月間	保険料	() 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (**リヨン Lyon**)

リヨンはパリに次いで2番目に人口の多い都市で、その豊かな文化が有名です。フランス南寄りの中東部にあり、ローヌ川とソーヌ川の合流地点に位置し、古代ローマ時代から交通と商業の要所として栄えてきました。歴史地区のVieux-Lyonはユネスコ世界遺産に登録されており、中世からルネサンス期の街並みや「トラブール(Traboule)」と呼ばれる、第二次世界大戦期にレジスタンスによって用いられていた路地が残ります。また、美食の都としても有名で、伝統的な郷土料理(クネル(Quenelle)、アンドゥイエット(Andouillette)など)がブションリヨネ(Bouchon Lyonnais)というお店で味わえます。さらに、絹織物産業や映画発祥の地としても知られ、文化と産業の両面でフランスを代表する都市です。

【学業編】

1. 大学情報

大学	リヨン第3大学	所在地	リヨン(Mon plaisir)
最寄空港	Aéroport Lyon-Saint Exupéry	空港からの距離	50 分
空港⇄大学	(トラム”Rhônexpress” と トラム T4) *移動手段		
学生数	27,661	留学生数	4,478
学部	法学部(Droit) 言語学部(Langues Étrangères Appliquées(LEA)と Langues, Littératures et Civilisations Étrangères et Régionales(LLCER)) 哲学部(Philosophie) 文学部(Lettres) 歴史学部(Histoire) 地理・開発学部(Géographie et aménagement) 経営部(Gestion) *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	文学部 *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	10:00-11:00 Initiation à la Culture Française(ICL) フランス文化 入門		8:00-10:00 FLE(フランス語)	8:00-9:30 Version Japonais(日 本語翻訳)	9:30-11:00 Japonais Culture, économie et société(日本文化・ 経済・社会)
午後			11:00-12:30 Japonais Enjeux sociaux, économiques, environnementaux(日 本社会・経済・環境的 課題)		12:00-14:00 Mondes Contemporaines(現 代社会)

② (1)月～(5)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	10:00-11:00 Initiation à la Culture Française(ICL) フランス文化 入門	8:00-10:00 FLE(フランス 語)		8:00-10:00 Sociologie général(社 会 学)	
午後				12:00-14:00 Philosophie modern 近世哲 学 16:00-18:00 Philosophie des Sciences Humaines et sociétés (人間 科学と社会の 哲学)	

3. 履修内容

科目	FLE (フランス語)		
履修期間	1 年間	単位数	1 学期 5 ECTS 計 10
授業内容／形態	内容： DELF B2 レベルの授業で、文法を中心に学んでいる。 その他口頭発表(exposé)やライティング(réduction)提出、計 5 回のテストによって成績がつけられる。 形態：少人数授業、交換留学生のみ 15 人程度		
成績	秋学期：14.2/20 春学期：14.9/20		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Initiation à la Culture Française(ICL) フランス文化入門		
履修期間	1 年間	単位数	1 学期 3ECTS 計 6
授業内容／形態	秋学期：リヨンの有名人、フランコフォンについて、プレスとメディア、フランスの政党、フランスの多様性、フランス文学、生態学と持続可能な開発、トラブルとカニユ 春学期フランスの 2000 年の歴史、第二次世界大戦/レジスタンス、フランスとヨーロッパ、郊外とその文化、フランスのアーティスト、フランス第五共和政、フランスの映画、フランスのガストロノミー 形態：一斉授業、交換留学生(200 人程度)のみ		
成績	秋学期：13.734/20 春学期：17.234/20		
YCU 振替予定	科目	フランス文化論 A1	
	単位数	2	
	担当教員	平松 尚子先生	

科目	Japonais Enjeux sociaux, économiques, environnementaux (日本社会・経済・環境的課題)		
履修期間	秋学期	単位数	2.5
授業内容／形態	内容：日本の課題について、日本人の教授（授業はフランス語）によって説明されている。前半は日本の戦後～2000 年代の経済史を振り返り、後半ではそれを元に日本の社会課題について紹介されている。中間テストと期末テストの点数によって成績がつけられる。 形態：少人数授業(TD), 約 20 人		

成績	14.05 / 20	
YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

科目	Version Japonais(日本語翻訳)		
履修期間	秋学期	単位数	1.5 ECTS
授業内容／形態	内容：日本語をフランス語に翻訳する授業。 形態：少人数授業(TD)		
成績	16 / 20		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Japonais culture, économie et société(日本文化・経済・社会)		
履修期間	秋学期	単位数	2 ETCS
授業内容／形態	内容：2023 年-2024 年の日本の時事、日本の政治の編成、民族的アイデンティティ、社会的不平等、日本の地理、農業・漁業、都市化、宗教 中間レポート、期末の論述テストにて評価 形態：一斉授業(CM)、50 人程度		
成績	16.5		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Mondes Contemporaines(現代社会)		
履修期間	秋学期	単位数	5
授業内容／形態	内容：フランス革命以後から第一次世界大戦までのフランスの歴史について。口頭のための授業で、毎週の小テストと最終の口頭発表によって評価。フランス革命の遺産、革命前の君主制、1848 年ヨーロッパの民衆のプランタン、1871 の恐ろしい時代、労働反対運動、現代社会のナショナリズム、18 世紀以後の環境史、女性運動、第一次世界大戦について		

	形態：大人数授業(CM)200 人程度	
成績	16/20	
YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

科目	Sociologie générale (社会学)		
履修期間	春学期	単位数	5 ECTS
授業内容／形態	内容：社会学の方法論/定義/応用、デュルケーム/ウェーバー/トクヴィル/マルクスなどの古典的理論、現代における諸理論、社会化の概念、階層理論(階層理論(産業社会におけるダイナミクス, 不平等と平等の体制, 対立と集団的運動による社会関係), 不平等(デュベの経験の社会学, 階級からの不平等, 社会的公正のモデル, 多重不平等の体制)、労働(産業社会における労働と雇用を通じた有機的統合, 雇用における労働の変容, 雇用の不安定性, 労働を通じた, 差別化された統合) 形態：大人数授業(CM) 200 人程度		
成績	12.37/20		
YCU 振替予定	科目	社会学入門 a	
	単位数	2	
	担当教員	角田 隆一先生	

科目	Philosophie modern 近世哲学		
履修期間	春学期	単位数	5 ECTS (未取得)
授業内容／形態	内容：デカルトが哲学にもたらした影響(デカルト以前と以後の比較)、デカルトの思想(コギト, 神, 魂, デカルト的心身二元論, イデア, 普遍数学)、方法論(新しい哲学, デカルト的方法論, 形而上学, 物理学)、デカルトの著作(世界論, 精神指導の規則, 方法序説, 省察, 情念論…) Dissertation での評価 形態：<u>必須</u>の少人数授業(TD)、大人数授業(CM) 200 人程度		
成績	9 / 20		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		

	担当教員	
--	------	--

科目	Philosophie des Sciences Humaines et sociétés (人間科学と社会の哲学)		
履修期間	春学期	単位数	5 ECTS (未取得)
授業内容／形態	19 世紀末に独立した科学として確立されて以来付き纏っていた「心理学は自然の科学なのか、それとも心の科学なのか?」「心理学の対象である心の現象は、認識論的にも存在論的にも自然現象とは異なるものであるにもかかわらず、どのようにして自然主義的な方法で研究することができるのだろうか?」という問いに関して、心理学の誕生から古典的理論の潮流(生理学と精神の科学, 実験心理学, 経験心理学, 行動主義, 物理主義, 志向性の実存主義, 解釈主義等)を見ることによって再考する授業 形態: <u>必須</u> の少人数授業(TD)、大人数授業(CM) 200 人程度		
成績	8 / 20		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

学びの多い 10 ヶ月でした。出国してから 5 ヶ月は日本に帰りたいとずっと考えていたのに気がつけばフランスの生活に慣れてきていて、帰国する際にはフランスに早く戻りたいと思うようになっていました。それだけ自身がフランスの文化に同化し、ある種の居心地を得たのだと思います。

フランスは学ぶのに優れた環境だったと思います。公共の図書館はリヨンだけでも 16 箇所あり、学ぶ場所には困ることはありませんでした。また、多くの文化財や歴史的建造物にてフランスの学校在籍生に限り入場料が無償だったため、さまざまな歴史や文化に触れることができました。そして、国内外問わず交通費の安価なバスが流通していたために旅行もしやすく、計 13 カ国 40 都市を訪れるに至りました。そこでの学びは一言で語ることは出来ませんが、旅に伴うハプニングからの学びは勿論、全ての地域におけるそれぞれの特色やそこでの住民の生活環境を観察することが、普遍的な性質と文化的相違を見分けるのに役立ちました。

それでも実際、生活は苦痛に満ちていて¹、快は日常の小さな破片とバカンスの間にしか見つかりませんでした。日本での安心できる当たり前の生活環境は無くなり、社会的な制度や文化的慣習が大きく異なることから苛立ちを覚え、最終的には自分の存在意義そのものの損失も感じました。また、留学することを自分で選んだ責任を果たして留学の目的の遂行を目指したい自分と、苦しみから逃れて留学生生活を満喫したい自分とが拮抗したり、多様な留学生²と比較せざるを得ない環境に立たされたりしたことで、本来有していたはずの自分の信念や留学の目的そのものを見失うこともありました。しかし、このような葛藤に絶えず苛まれたからこそ、自分自身の特性と向き合う習慣が身につき、それに合わせて困難を乗り越えるための方策を練るようになって、強く、前向きになることを覚えたのだと思います。

このような困難に直面するにあたっては、留学先で出来た友人の存在が大きな支えとなっていました。出自もそこでの生活環境も考え方も異なる彼らとフランス語での会話を通して理解を深めることは、最初はそう簡単ではありませんでした。しかし、それぞれが独自の文化を有する個人だという前提があったからこそ、その分対話が増えて、相手を理解しようと向き合うことが出来ました。彼らとは互いの文化や歴史を紹介したり、旅を共にしたり、食事を共にしたり、留学の困難さを共有したりすることを通し、絆は徐々に深まっていき、最終的にはかけがえのない存在にまで発展しました。

この留学の 10 ヶ月間は学びに満ち溢れ、唯一無二の貴重な経験となりました。このような経験を得たこと、そのために協力してくださった全ての方に感謝をしています。

¹ 具体的には、シャワーの水が出ない、店が閉まっている、物価高・円安による経済的不安に駆られる、テスト期間にインフルエンザにかかる、学部の授業が難しい、資料がなく口頭だけの授業があるなど。

² 2024-2025 年のデータによると、リヨン第 3 大学には異なる 115 カ国から 4545 人の留学生が来ました。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

留学によって得た自分にとっての最大の学びは、異文化を持つ人と話すということがどのようなことなのか、異なる環境とはどのようなものなのかということの一端を知れたことだと思います。目に見えている様相がその人の内的属性全てを表すわけではなく³、それぞれに目には見えない事情があり、自分の固有の居場所があり、それに対する誇りがあることが分かりました。俗にいう、「当たり前は当たり前ではない」ということです。

これらの経験での学びを今後は帰国後の学問的研究に、さらにその後の職務において活用していきたいです。学問的研究に関しては、知覚した文化的差異や異文化間の葛藤などを自身の経験と照らし合わせながら、文化や社会制度に内包される個人の普遍的な特性、そしてそれらが個人に与える影響について考えていきたいです。その際には、表面にみえる事象の同定によって現象を捉えるのではなく、その現象について熟慮をした上での物事の理解を目指します。また、その後の職務に関しては具体的には決まっていないものの、国際的な活動を通して異なる立場や信念を持った人々を尊重しながら互いに協力をし、共通した地球課題に取り組む活動に生かしたいと思っています。留学で培った学びを糧に、これからも精進していきたいです。

<https://www.univ-lyon3.fr/profil-des-etudiants>

³ 例えば、リヨン第三大学に正規学生として通っていた 1 人の友達は、血縁者がアジア出身ということからアジアのような顔つきをしていました。しかし、その子の国籍は実はアジアのどの国でもフランスでもなく、スペインでした。他にも、出身や国籍は韓国だけど、フランスの小学校に 2 年間通ったのちに韓国でフランスのインターナショナルスクールへ行き、フランスのバカロレアを取得して現在フランスの大学に通っている友達もいました。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

留学をする前に必ずやっておいた方がよいことは、フランス語の学習です。フランス語は高いレベルがあればあるほど良いかと思います。特にリヨン第三大学では(DEUF のコースを取っていれば)フランスの学部生と同じ授業を受けるため、フランス語が出来ることが当たり前前の環境に立たされます。フランス語ができる交換留学生もザラにいたので、「第二言語だから出来なくてしょうがない」という言い訳は通用しません。私は留学前に DELF B1 を取り、出国の 3 ヶ月後にフランスで DELF B2 を受けましたが、留学前に DELF B2 を取っておけば良かったと感じています。なぜなら、DELF B2 がないと受けられない授業がいくつかあるからです。そうでなくとも、学部で学ぶためには最低でも B2 がないと理解に苦しみます。英語で授業を受ける方も、フランスで話されている言語はあくまでフランス語だと留意した方がよいかと思われます。

留学中には、学部によって授業形態が異なるため億劫でも先生と沢山コミュニケーションをとること、帰国の際の荷物の重量アップは事前に電話で済ませることなど多々あります。字数制限の関係上、詳細は省くので連絡してくれば全てお伝えします。

留学は、楽しいことばかりではありませんが、必ず自分を強くしてくれる貴重な経験となります。応援しています。